

倉吉市中心市街地再編の検討状況について

- 鳥取県中部地域公共交通網形成計画及び鳥取県中部地域公共交通再編実施計画に基づき、倉吉市中心市街地の北側ルート（「倉吉パークスクエア北口」、「堺町」、「赤瓦・白壁土蔵」等を通るルート）を經由する松崎線の全便、市内線及び高城線の一部の便について、南側ルート（「厚生病院正面玄関前」、「倉吉パークスクエア」、「市役所打吹公園入口」等を通るルート）経由に変更することを検討している。また、上井三朝線の一部の便の経路を変更し、南側ルートの「厚生病院正面玄関前」に乗り入れることも検討中である。あわせて、利用が少ない高城線の土日夜の1便の減便も検討中である。
- これにより、北側ルートの過密ダイヤを緩和（平日約100往復→約90往復）するとともに、北側ルートに比べ便数が過少な南側ルートを充実（平日約20往復→約30往復）させ、南側ルート利用者の利便性を向上させる。具体的には、平日7時～19時における南側ルートバス停のバス平均通過頻度が約50分/本から約30分/本に大幅に改善することとなる。また、厚生病院、野島病院といった総合病院や倉吉パークスクエア、県立美術館（R7年開館予定）、フィギュアミュージアムといった観光施設は、北側ルートより南側ルートからの方がアクセスしやすく、南側ルート充実により通院利便性、観光利便性が向上する。

1 再編案の概要

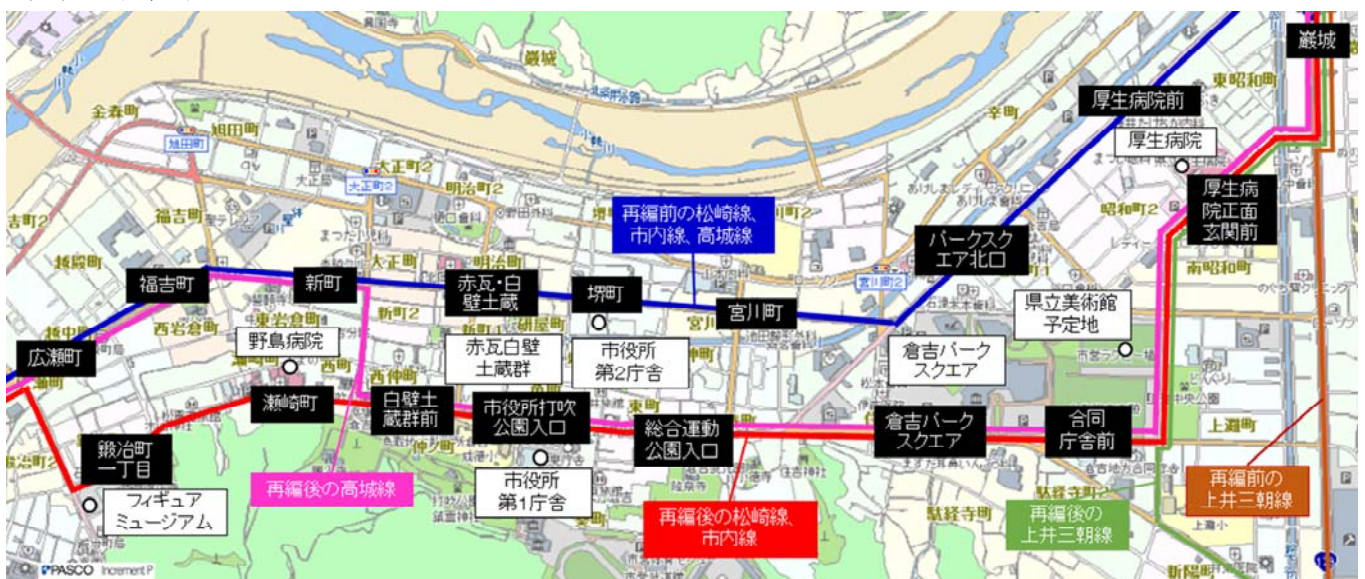
(1) 実施時期

令和3年10月

(2) 南側移管路線・便数

路線	平日		土日祝	
	上り	下り	上り	下り
松崎線（全便）	7	7	7（日祝6）	6
市内線（一部）	2	2	1	1（日祝0）
高城線（一部）	1	2		1
上井三朝線（一部）	3	3	3	3
合計	13	14	11	11

(3) 運行経路



(4) 運行ダイヤ

別添のとおり

## 2 南側ルート増便の考え方

- 過去のアンケートで「最低限必要なバスの運行回数」として一番割合が高かった「30分に1本」程度の平均運行頻度を目指す。
- 再編対象路線は国庫補助金の選定要件緩和が認められる場合があり、その恩恵を受けやすい路線を南側移管する。(松崎線:輸送人員要件等の緩和により国庫補助対象になる可能性あり)
- 利用者の分かりやすさの確保のため、すでに運行経路(系統)が多い路線は南側移管しない。  
(例:西倉吉経由便や青山剛昌ふるさと館経由便がある赤碓線)
- 通学利便性確保のため、北側沿線の学校の生徒の利用が多い路線や南側経由により始業時間に間に合わなくなる路線は南側移管しない。(例:倉吉東中学生が多く利用する栄線)
- 将来的に県立美術館近くの新バス停設置の可能性を踏まえ、ルート等を設定する。(例:上井三朝線の再編経路は将来的に県立美術館前にバス停が設置されることを想定して設定)